

# Anchor's PERSON



「私自身が車やバイクが好きです。  
だからこそ、お客様の想いに応えたい」

株式会社 東京オートラボ  
代表取締役

増田 康一

自身も15年以上にわたり車やバイクに情熱を注ぎ、  
現在は整備士として多くの車好きの信頼に応えている増田社長。  
「車好きにとって、大切な愛車を預けるという行為は、保育園に子どもを預けるようなもの。  
安心していただけるように、分業での流れ作業ではなく、一台を一人が担当します」——  
自身が車を愛しているからこそ、車好きの想いは自分のことのように理解ができる。  
そんな社長の真っ直ぐな情熱は、多くの顧客からの信頼に繋がっているのだ。

# 設計者の意図まで読み解き 車好きの信頼に応える整備会社



「社長の確かな技術と情熱が、  
厚い信頼に繋がっているのでしょう」

タレント

市井 紗耶香

「設計者としての知見を活かして、  
オーナー様に最適なお提案をします」

増田 康一

代表取締役



special

interview

東京都多摩エリアに拠点を構える『東京オートラボ』は、GT-R やアストンマーティンをはじめとする、ハイパフォーマンスなスポーツカーの整備・メンテナンスに特化したガレージだ。かつて重工業メーカーでジェットエンジンの設計開発に携わっていた増田社長は、設計者としての深い知見をもとに適切なサービスを提供し、多くのオーナーから絶大な信頼を寄せられている。本日は、タレントの市井紗耶香さんが社長にお話を伺った。

——早速ですが、増田社長の歩みからお聞かせください。

慶應義塾大学、同大学院への進学で上京したのですが、私の人生の転機となったのは、大学に入ってからです。教習所に通い始めて、初めて車を運転した瞬間に「こんなに楽しいものがあるのか!」と、その魅力に雷に打たれたような衝撃を受けたのです。それからはもう、生活のすべてが車とバイク中心になりました。理系の研究に励む傍ら、休みの日になればアマチュアレースに出場したり、自分で愛車をいじり倒したりと、まさに車漬けの毎日でしたね。

——その後はどうされて?

もともと機械が好きだったことに加え、飛行機への憧れもあり、大学院卒業後は航空機のジェットエンジンを設計開発する会社で勤めるようになりました。映画「風立ちぬ」に描かれているような設計審査会など、緊張感のある世界で十数年間、最先端の技術と向き合ってきました。——そこからなぜ整備士に転身されたのでしょうか。

設計という仕事に携わる中で、気づいたことがあったのです。自分は画面上で図面を引くことよりも、実際に自分の手で機械に触れ、いじり、そして動かすことのほう

が根源的に好きなのだ。また、組織に属して働くサラリーマンではなく、自分の責任で舵を取る「経営者」になりたいという思いも日増しに強くなっていったのです。それで、独立という道を選びました。

——思い切りましたね。

確かに周囲からは「もったいない」と言われました。先述のような気持ちを持ちつつも仕事を続けていましたが、一つの決定的な出来事がありました。私が深く関わった航空機の初飛行が行われる際、私は立ち合いを希望したのですが、フタを開けてみると私より関わりの薄い上司が参加していました。ここから「会社とは何か、仕事とは何か」と自問自答し続け、最後は設計チームで管理職になっていましたが、自分のやりたい仕事をするにはサラリーマンでは無理だという結論に達したのです。「このままの人生を歩んで、死ぬ時に後悔しないだろうか」と考えた時、答えは明白でした。独立の準備としてさらに経験を積むために、先に独

## column | 情熱を抱き歩み続ける

▼増田社長を支えるバイタリティの源泉は、純粋な「車好き」という情熱だ。社長はスティーブ・ジョブズの言葉を引用し、「素晴らしい仕事をする唯一の方法は、その仕事を愛すること」だと語る。採算を度外視してでも納得がいくまで技術を追求する職人気質は、自身の成長を促すだけでなく、顧客への揺るぎない信頼へと還元されている。

▼その情熱は地上に留まらない。かつて設計者として向き合っていた「空」を、今度は自らの操縦で飛ぶために、小型飛行機の免許取得を夢見ている。設計者の緻密な頭脳と職人の熱き魂。その両輪を回しながら、彼は設計図には描けなかった「最高の仕事」を、人生という地図に描き続けている。

——それは確かに心強いですね。主にはどのような車を扱っておられて?

私自身がずっと乗り続けているGT-Rには特に思い入れがありますが、スポーツカー全般を幅広く手掛けています。また、フェラーリやアストンマーティンのような、ディーラー以外ではメンテナンスが難しいとされる特殊な輸入車にも対応しています。

——こういった車は、本当にその車がお好きな方が乗るイメージです。

ええ。だからこそ接客にもこだわっております。当店では、入庫の案内から試走行、実際の整備、そしてお客様への説明まで、基本的に一人が担当します。これにより、1台1台の車に深く関わることができ、お客様一人ひとりに合わせた最適なアドバイスが可能になります。車が好きな人にとって、大切な愛車を預けるという行為は、保育園に子どもを預けるようなものだと思うのです。顔が見えない人に任せたくない、流れ作業のような対応はしてほしく

ないというオーナー様の想いに応えたいと考えています。

——最後になりますが、今後の展望をお聞かせください。

整備士は職人だと思っていますので、一生技術を追求し続け、「この修理はこのお店がNo.1だ」と言ってもらえるようになりたいです。もっと規模を大きくしたいという想いはありますが、自分の目が届かないような多店舗展開は考えていません。お客様一人ひとりとしっかり向き合うスタンスは変えたくありません。

——次代を担う若い方々にメッセージをお願いします。

好きなことを仕事するために探す努力を、惜しまないでほしいです。若いうちは何にでもチャレンジし、多くの経験を積むことが大切です。情熱を注げるものが見つければ、それは必ず質の高い仕事へと繋がり、人生を豊かにしてくれるはずですから。

(2026年2月取材)